

私立大学における「建学の精神」の役割

木村 正則

1 問題の所在

「国家ノ須要」を目的として東京大学が帝国大学に改組されたのは明治19（1886）年であるが、その頃すでに市井では民間人がその後の日本の高等教育を支える教育機関を設けていたことは周知のとおりである。例えば、慶應義塾大学の歴史を見てみると、福沢諭吉が安政5（1858）年に蘭学塾を開設し、これを近代私学として出発させたのは慶應4（＝明治元年、1868）年であるとされている¹。福沢が設立した学校は、帝国大学が誕生する20年近くも前から存在していたことになる。また、これ以外にも現在の主要私立大学の起源となった学校も多くあり、国立大学と同様に長い歴史を積み重ね今日に至っている。

既述したように帝国大学には国家建設のための主要な人材を育成するという明確な目的があったが、私立学校はどのような目的で設立されたのであろうか。これを一言で言い表すことは難しいが、天野（2009）は、「発足した私立学校に共通に見られるのは使命感、とりわけ啓蒙への強い志向である」と述べ、国家を牽引する人材育成というよりも、人間としての成長に焦点を当てる教育に意義を見出したのではないかと示唆している²。ただし、これらの私立学校が官立大学と同様の高等教育機関として認められるようになるには大正7（1918）年公布の大学令を待たなければならなかった。その後、私立学校の中には一定の条件のもと、法的に大学と称することができる教育機関も増えていき、戦前の複雑な高等教育システムが完成された³。

終戦後はそれまでの高等教育システムが単純化され、大学と称されていなかった高校（旧制高校）や師範学校なども同一に大学と名乗ることになった。この単純化された高等教育システムは戦後長らく続くことになったが、1990年代に入り行政改革とともに再び大きな変化が生じることになる。それがいわゆる大学設置基準の大綱化である。これにより、株式会社立の大学を含め、新規の大学を設立することが容易になった。また、18歳人口の減少等の理由により受験生の確保がますます困難となった短期大学や専門学校が大学になるケースも見受けられるようになった。その結果、大学と称せられる学校の数は急増した。

具体的には、1990年から2011年までのわずか20年あまりの間に大学数は372校から

599校へと六割以上も増え、私立大学が占める学校数の割合は1955年の57.1%から77.5%になり、全大学生の約74%が私立大学で修学しているのである⁴。その一方で、18歳人口は現在も減少傾向にあり、平成36(2024)年には110万人を下回り、平成43(2031)年までには100万人を切り99万人になると予測されている⁵。

こうした背景を理由に、平成28年(2016)年度現在で入学定員充足率が100%を下回っている大学数は275校もあり、私立大学全体の44.5%が定員割れを起こしているといわれている。急増する大学と歯止めのかからない少子化現象に対応するため、今日の大学は受験生確保の取り組みの一つとして広報戦略に力を入れているといわれている。しかし、これまで紙媒体を中心に展開してきた広報業務は、電子媒体での広報業務に移行しつつある。そのため、大学はホームページの作成にも工夫を凝らしている。その工夫の仕方は大学によって異なるが、どの大学においても共通して提供している情報がある。その一つが「大学紹介」等と表示されている情報欄である。

受験生に当該大学のことをよりよく知ってもらうことを目的としてホームページを充実させているわけであるので、大学の紹介は当然のように思われるかもしれない。しかし、この情報欄には現在の大学についてだけでなく、どのような経緯で大学が設立されたのかといった過去にまつわる事柄についても紹介されているのが一般的である。とりわけ、「建学の精神」、「建学の理念」、あるいは「建学のスピリット」等(以下、「建学の精神」と表記)と称せられる情報についてはどの大学も丁寧に紹介している。そして、紹介される「建学の精神」の中には受験生に学祖の壮大な夢を伝えるものもあれば、大学の源流が戦前の官立大学と競うほど輝かしい伝統があるような印象を与えるものまである。

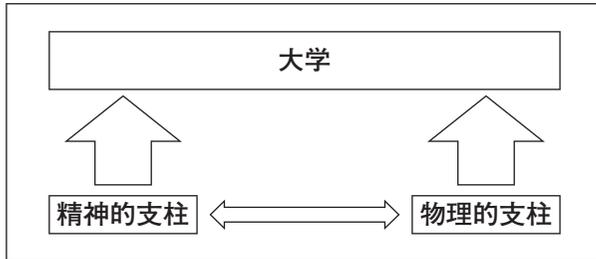
このように、「建学の精神」は大学の生き残り戦略の一環として活用されているわけであるが、こうした広報活動以外の目的においても機能しているのであろうか。本稿はこれに関わる事柄として、大学教員の帰属意識の問題、ならびに大学経営の問題について「建学の精神」という視点から論じてみる。

2 私立大学における「建学の精神」とは

次節以降で具体的な問題を提起する前に、まず本節で「建学の精神」とは何か簡潔に定義しておきたい。「建学の精神」とは、私立学校法の観点から見れば、「私立学校の特性」と定義できる⁶。そして、その「特性」とは学祖が学校の設立目的として挙げた精神性を指す。学校の設立にあたっては財政的な裏付け等が十分に備わっていなければならないが、それらに加え、その学校が人材育成を含めどのように社会的使命を果たそうとしているのか、その精神論を明らかにする必要がある。その精神論こそが「建学の精神」なのである。

図1が示すように、「建学の精神」と、大学施設、カリキュラム、教職員など目に見える物理的支柱との間には相互補完関係がある。この補完関係において「建学の精神」がどのように大学で機能するかについて、寺崎は「精神的拠り所こそが機能への意識的反省を促すものであり、機能の確認（つまり、Institutional Research: IR）の思想的基礎となる」と説明している⁷。

図1 大学を支える二つの柱



IR自体は物理的な作業であるが、IRを通じて得た学内のさまざまな情報をどう活用するのか、あるいは解決すべき課題をどのように克服しようとするのかといった局面に遭遇した際、「建学の精神」はその指標となるべきものである。

つまり、「建学の精神」は当該大学の精神性を象徴するものであるが、それは単に精神論にとどまらず、大学が対処しなければならないあらゆる物理的欲求をチェックする判断基準ともなるのである。

3 「建学の精神」は機能しているのか：教員に対する「建学の精神」への期待

現在多くの大学は、在学生が自身の大学について理解を深められるよう工夫を凝らしている。例えば、近畿大学では「自校学習」という選択科目が開講されており、学生は同科目を履修することにより自身の大学の「建学の精神」について学ぶ機会が設けられている⁸。こうした科目は近畿大学だけでなく、他の私立大学でも開講されている⁹。また、宗教系の大学であれば、礼拝が課せられ、大学教職員による講話や説教が在学生に提供される場合もある。あるいは、大学行事の一部として宗教行事を実施することにより、大学が持つ精神性を学生が理解できるように環境を整えている場合もある。

ところで、教育現場で「建学の精神」を浸透させる活動は、学生を指導する教員の積極的な協力なしには、十分にその効果を発揮できない。それでは、日々学生たちと緊密に接し、学生に多大な影響を与え得る教員に対して、大学は「建学の精神」についてどの程度理解と協力を求めているのであろうか。これについては直接的な研究が過去にない。そのため、本節においては筆者がJREC-IN Portalの外国語教員公募で集めた間接的なデータで考察を試みる。

データは2012年4月から2016年10月までの4年6ヶ月間にJREC-IN Portalに公開さ

れた外国語科目を担当する常勤教員の公募 2,091 件を基礎としている¹⁰。そして、そのうちの何件の公募が、また、どのような大学が応募要件の中に「建学の精神」への理解と協力を求めているのか調査した¹¹。その結果、表 1 および表 2 が示すように、これに該当する顕著な二つのタイプの大学が確認された。その二つのタイプの大学とは、女子大学と宗教系の大学であった。一方、これら以外の大学の公募では「建学の精神」への理解と協力を求める公募件数の割合が極めて低いことが判明した。

女子大学と宗教系の大学のデータは、日本の私立大学の大半を占める共学の大学・非宗教系の大学における「建学の精神」の役割を再考するための一つの手がかりとなるかもしれない。そのため、女子大学と宗教系の大学から得られた結果について若干考察しておきたい。

まず、共学の大学と女子大学との間にみられる「建学の精神」への理解と協力を求める公募件数の割合の差であるが、表 1 の標準化残差が示すように、宗教系大学・非宗教系大学のいずれの分類群においても、女子大学のほうが共学の大学よりもその割合が高いことが分かる。これは、女子大学では理系を中心としたサイエンス系の学問領域に重きを置く大学が少なく、リベラルアーツ教育を重視する大学が多いことと関係しているかもしれない。サイエンス系の専門領域が多い大学では、そうした学問領域での研究成果を社会にアピールしやすいが、リベラルアーツを主とすることが多い女子大学ではそれに代わるものとして、学生と教員との関係性を重視するため、大学が目指す人格形成に協力的な教員を公募で求める傾向が強く、結果的に教員公募時において女子大学のほうが共学の大学よりも「建学の精神」についてより積極的に理解を求めているのではないかと推察される。

さらに、表 1 内の標準化残差を詳細に見れば、共学の大学であるか否かという因子よりも、宗教系の大学か否かがより重要な因子であることが分かる¹²。表 1 の総合計欄の標準化残差を見ると、女子大学での偏りが突出しているが、宗教系の女子大学のほうが非宗教系の女子大学よりも、総合計欄の標準化残差により大きく寄与していることが分かる。また、表 3 内の宗教系大学と非宗教系大学におけるそれぞれの分割係数（.283 vs..080）からも同様の結果が示唆されている。

つまり、大学が「建学の精神」のバックボーンとして特定の教義を持ち合わせているか否かが重要な要因であるのかもしれない。表 4 から表 6 が示すとおり、宗教系の大学、とりわけキリスト教系の大学においては、社会にキリスト教団としての強い意志を示す大学が多くあり、受験生の取り込みを睨んでのことというよりも、大学の存在意義そのものが特定の宗教（宗派）の理解なしには学内運営が円滑に進まないことも予想されるため、教員採用にもこうした点が強調されるのではないかと思われる¹³。

表 1 「宗教 x 共学 x 建学の精神」のクロス表

宗教			建学の精神			合計
			建学の精神 の記載あり	建学の精神 の記載なし		
宗教系大学	共学の大学 と女子大学	共学の大学	公募件数	175	242	417
			期待度数	209.6	207.4	417.0
			標準化残差	- 2.4	2.4	
		女子大学	公募件数	101	31	132
			期待度数	66.4	65.6	132.0
			標準化残差	4.3	- 4.3	
	合計		公募件数	276	273	549
			期待度数	276.0	273.0	549.0
	非宗教系 大学	共学の大学 と女子大学	共学の大学	公募件数	194	1252
期待度数				204.4	1241.6	1446.0
標準化残差				- 0.7	0.3	
女子大学			公募件数	24	72	96
			期待度数	13.6	82.4	96.0
			標準化残差	2.8	- 1.1	
合計		公募件数	218	1324	1542	
		期待度数	218.0	1324.0	1542.0	
総合計		共学の大学 と女子大学	共学の大学	公募件数	369	1494
	期待度数			440.1	1422.9	1863.0
	標準化残差			- 3.4	1.9	
	女子大学		公募件数	125	103	228
			期待度数	53.9	174.1	228.0
			標準化残差	9.7	- 5.4	
	総合計		公募総件数	494	1597	2091
			期待度数	494.0	1597.0	2091.0

以下は、宗教系 A 大学の常勤英語教員の公募に記載されていた「建学の精神」に関わる応募資格項目の一例である。

「(宗教名) 精神に基づき、自由にして敬虔なる学風を樹立して、国際的教養と民主的
社会人としての良識とを有する良心的人材を養成することを目的とした、本学の精神や

目的を理解し、積極的に支援できる者。』

(2016年12月 JREC-IN Portal 公開情報による)

以上のことから、「建学の精神」への理解を求める傾向が最も強いのは、宗教系大学で、特に宗教系女子大学であり、その対極にあるのが非宗教系の共学の大学であると上記のデータから読み取れる。

表2 表1のカイ2乗検定

宗教		値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確な有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)
宗教系 大学	Pearson のカイ2乗	47.871 ^c	1	0.000		
	連続修正 ^b	46.499	1	0.000		
	尤度比	49.888	1	0.000		
	Fisher の直接法				0.000	0.000
	線型と線型による連関	47.784	1	0.000		
	有効なケースの数	549				
非宗教系 大学	Pearson のカイ2乗	9.951 ^d	1	0.002		
	連続修正 ^b	9.020	1	0.003		
	尤度比	8.513	1	0.004		
	Fisher の直接法				0.004	0.002
	線型と線型による連関	9.945	1	0.002		
	有効なケースの数	1542				
合計	Pearson のカイ2乗	138.054 ^a	1	0.000		
	連続修正 ^b	136.120	1	0.000		
	尤度比	117.957	1	0.000		
	Fisher の直接法				0.000	0.000
	線型と線型による連関	137.988	1	0.000		
	有効なケースの数	2091				

a. 0セル (0.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は53.87です。

b. 2x2表に対してのみ計算

c. 0セル (0.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は65.64です。

d. 0セル (0.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は13.57です。

表3 対称性による類似度

宗教		値	近似有意確率
宗教系大学	名義と名義 分割係数	0.283	0.000
	有効なケースの数	549	
非宗教系大学	名義と名義 分割係数	0.080	0.002
	有効なケースの数	1542	
合計	名義と名義 分割係数	0.249	0.000
	有効なケースの数	2091	

もつとも、本節で利用したデータは、あくまでも外国語教育に従事する常勤教員を対象とした求人公募のみを基礎にして論じられたものであり、他の学問領域の教員公募を含めた幅広い情報から結論を導き出したものではない。

そのため、調査結果に疑問を持たれるかもしれない。しかし、外国語教員にだけ「建学の精神」への理解を求める（あるいは求めない）ということは学校法人の人事基本方針として設定しづらいのではないだろうか。そう考えるならば、当該データが示唆するように、女子大学や宗教系の大学などでは教員にも「建学の精神」への比較的高い意識を求め、その他の多くの私立大学では、研究業績を除き、教員に対して「建学の精神」への理解と協力について多くを期待していないと解釈できる。

表4 「宗派 x 建学の精神」のクロス表

			建学の精神		合計
			建学の精神の記載あり	建学の精神の記載なし	
宗派	キリスト教系大学	公募件数	237	205	442
		期待度数	104.4	337.6	442.0
		標準化残差	13.0	- 7.2	
	仏教系大学	公募件数	33	62	95
		期待度数	22.4	72.6	95.0
		標準化残差	2.2	- 1.2	
	その他の宗教系大学	公募件数	6	6	12
		期待度数	2.8	9.2	12.0
		標準化残差	1.9	- 1.0	
	非宗教系大学	公募件数	218	1324	1542
		期待度数	364.3	1177.7	1542.0
		標準化残差	- 7.7	4.3	
合計	公募総件数	494	1597	2091	
	期待度数	494.0	1597.0	2091.0	

表 5 表 4 のカイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	308.443 ^a	3	0.000
尤度比	280.039	3	0.000
線型と線型による連関	299.886	1	0.000
有効なケースの数	2091		

a. 1 セル (12.5%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.84 です。

表 6 対称性による類似度

宗教		値	近似有意確率
名義と名義	分割係数	0.359	0.000
有効なケースの数		2091	

もちろん、採用後の FD 活動等において大学の基本方針を教員に理解してもらうことは可能かもしれない。しかし、すでに入職という目的を果たした教員に「建学の精神」についての理解と協力を

改めて求めることはそれほど容易なことではないであろう。

もし「建学の精神」の重要性が教員に十分理解されていないのであれば、教員を中心として作成される部局の 3 つのポリシー (アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー) の正当性についても疑義を抱かざるを得なくなる。教員公募において「建学の精神」に関わる応募資格を積極的に設けることで、大学が目指す教育方針を理解する教員を採用し、それによってこうした教育内容に関わる疑念も払しょくできるのではないだろうか。

4 「建学の精神」は機能しているのか：大学経営に関わる問題

既述したように、1990 年代以降の文教政策の転換と急激な 18 歳人口減少のため、収容定員数を満たせない私立大学が増加している。今後の経済状況や大学進学率等も考慮しなければならないため、大学受験者がどれくらい減少するのか予想は難しいが、例えば、現在と同程度の 50% の進学率が続くと仮定し、さらに収容定員が 1,000 人規模の小規模大学を想定するならば、今後 15 年間に 90 校程度の大学が消滅する計算になる。

このように大学の経営環境は今後もますます厳しさを増すことになる。そのため、大学は自らの存在意義を明確にし、それを社会に公表し、そして評価を受けるという地道な努力を続けなければならない。大学が自らの存在意義を明確にするということは、「建学の精神」に意識を向けることにほかならず、今はそれが実践できるか問われている時代なのである。特に経営戦略に直結した問題については、「建学の精神」への回帰こそが問題を

克服する可能性を示しているのではないだろうか。

例えば、一部の私立大学や専門学校が関心を寄せているといわれる専門職大学の設立についてである。中央教育審議会は政府の教育再生実行委員会の提言を受け、専門職大学という新たなタイプの大学の創設を答申し、より実践的、より実用的な職業訓練が受けられ、かつ学士が取得できる大学の創設を議論している¹⁴。専門職大学の設置基準は間もなく公開されるため、どのような大学、あるいは専門学校が専門職大学として名乗りを上げるのか近々明らかになるのであろうが、明確な精神的支柱を持たない専門職大学が出現すれば、経済活動のみに執着し、採算が合わなければ教育界から容易に撤退する可能性も考えられる。その場合、学生の権利をどう保障するのが喫緊の課題となることを教育機関は忘れてはならない。学生獲得の手段として利用され一過性の現象で終わった法科大学院や、同様の理由で短期大学から4年制の大学に変更したにもかかわらず経営難を乗り越えることができなかつた多くの事例から私立大学は教訓を学ぶ必要がある。

あるいは、地方私立大学の公立化という問題も「建学の精神」との関係で議論される必要がある。2017年2月5日付の朝日新聞によると、同新聞社の調査でこれまで私立大学だった7つの大学がすでに公立大学になっており、今後も6つの私立大学が公立化する予定がある、もしくは公立化の構想があると報道されている¹⁵。これについて、京都創成大学（のちの福知山公立大学）を公立化するにあたって反対をした塩見聡市議は「魅力ある大学にならなければ学生も来なくなる。ただ公立化すれば生き残れるわけではない」と語っている¹⁶。

大学の魅力とは、物理的にみれば充実した施設や交通の便、あるいは周辺自治体での利便性などであろうが、それらに加えてその大学が教育・研究機関として目指す理想が含まれるはずである。その理想を実現するために私立大学は設立されたはずであるが、経営上の理由で安易に公立化させた場合、その「建学の精神」はどのように変節してしまうのであろうか。私立大学が安易に公立大学となるのであれば、元来の「建学の精神」はもともと軽視されていたのではないかと疑わざるをえない。

専門職大学の問題および私立大学の公立化の問題で共通するのは、経済至上主義が引き起こす教育機関としての危険性である。教育効果は数値化しにくく、またすぐに効果を確認できないことが多いため、長い時間をかけて社会から信頼を得なければならない側面がある。経済至上主義に陥った場合、十分な時間をかけ学生を育てることができるのか危惧される。どのような人材を育てたいのか、「建学の精神」に立ち戻ることによってそのビジョンを確認する必要がある。

一方、大学教員は教育の効果は見えにくいという事実を隠れ蓑にし、教育者としての業務を怠ってはならない。教員は大学の一員として何ができるのか、想像してみることも重

要である。「建学の精神」の理解という点において、大学と教員が一致することが強く望まれる。

5 結語

近年の文教政策では大学運営に深く関わる事業が次々と打ち出されている¹⁷。しかも、それらの事業は競争的資金という形で展開されるため、大学間の競争は避けられない。もちろん、護送船団方式から競争主義への政策転換は大学に活力をもたらすというプラスの効果もあるため、競争主義が否定されるべきものではない。しかし、特に私立大学の場合はそうした事業に参加することを検討する際、「建学の精神」に照らした教育方針や研究戦略の基準を明確にしておかなければ、無秩序に応募した事業に教職員が翻弄されることになり、結果的にはその大学の特色を失うことにもつながりかねない。自己決定の精神的基軸となる「建学の精神」の確認と、それを教職員で共有することの重要性はここにある。

ただし、寺崎のことはを借りれば、「建学の精神」のエッセンスは不変であっても、常に「現代への翻訳」が必要なものであり、それゆえ捉え直しの視点が求められるものなのである¹⁸。「建学の精神」は過去から引き継いだ遺産であるとともに、大学が今後生き残るための手がかりでもある。移りゆく時代とともに「建学の精神」の捉え直しを試み、それを教育・研究の現場でどう反映させるのかという、いわば「建学の精神」のPDCAサイクルを構築することが、大学の特徴を際立たせる重要な手段の一つであることを大学も現場の教職員も再認識する必要がある。

謝辞

今回の調査では、国立研究開発法人科学技術振興機構の許可を得て、JREC-IN Portalに公開された求人情報を一部利用した。ご協力いただいた国立研究開発法人科学技術振興機構に厚く御礼を申し上げます。なお、本稿で用いた求人情報の利用方法、解釈等に問題があるとすれば、その責任は一切筆者が負うべきものであると付言しておく。

注

- 1 「慶應義塾年表」（慶應義塾大学 HP より）、
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/history/index.html>（最終閲覧日、2017年2月22日）。
- 2 天野郁夫、『大学の誕生（上）』、中公新書、2009年、83頁。

- 3 一定の条件として、例えば、設立者である財団が、大学運営に必要な十分な財産を有すること、そして国庫に供託することを求めていることが挙げられる。供託金は単科大学の場合で 50 万円であり、一学部増やすことに 10 万円を加えることが定められていた。

大学としての設備を整え、かつ高額な供託金を供することは非常に厳しい条件であったが、大正年間だけでも 22 の私立学校が大学に昇格している。(文部科学省 HP より「大学令の制定と大学の拡張」)。

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317663.htm

(最終閲覧日、2017 年 3 月 2 日)。

- 4 平成 28 年度 学校基本調査の結果をもとに計算。
- 5 内閣府、「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」、
<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siry06-2-7.pdf#search=%2718%E6%AD%B3%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E7%B5%B1%E8%A8%88%27> (最終閲覧日、2017 年 3 月 6 日)。

- 6 私立学校法第一章第一条。

- 7 寺崎昌男、「教養教育における「建学の精神」の可能性－私学ならではの教育の実践－」。平成 26 年度教育開発シンポジウム、國學院大學、平成 26 年 2 月 21 日。

- 8 「教育フロンティアレポート 3 特集自校学習」、近畿大学、
<http://www.kindai.ac.jp/about-kindai/pr/download-data/crossover/vol05/crossover05-report.pdf#search=%27%E8%BF%91%E7%95%BF%E5%A4%A7%E5%AD%A6+%E8%87%AA%E6%A0%A1%E5%AD%A6%E7%BF%92%27> (最終閲覧日、2017 年 2 月 24 日)。

- 9 例えば、麗澤大学でも、近畿大学と同様に「自校学習」という科目が設定されている。教育活動(自校学習)プログラム、麗澤大学道德教育科学センター、
http://cmse.reitaku-u.ac.jp/studies/kyouiku/201503301702_2831.html (最終閲覧日、2017 年 2 月 24 日)。

- 10 本稿では、無期雇用職、テニユアトラックポジション、ならびに非常勤講師職を除く有期雇用職に就く教員を常勤教員と定義している。なお、本稿のデータは、JREC-IN の大分類「人文学」の中からのみ求人情報を抽出した。これ以外の、例えば「社会科学」や「医歯薬科学」といった大分類においても、「人文学」の分類では公開されない外国語教員の求人情報が例外的に出現することがあるが、外国語教員を対象にした公募については、ほぼ「人文学」に集中していることから、「人文学」に掲載された公募のみを調査対象とした。

- 11 統計処理には SPSS version 24 を使用。
- 12 宗教系の大学とは、キリスト教系、仏教系、および神道系を含むその他の宗教系の大学を指す。
- 13 宗教と大学教員の関係性については欧米の大学でも見受けられる。例えば、19 世紀までのアメリカの大学の場合、当時のほとんどの学長は牧師であったと潮木は指摘している。詳細は、潮木守一、『アメリカの大学』、講談社、1993 年、18 頁～ 32 頁を参照のこと。
- 14 詳細については、文部科学省、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会（第 17 回）」配付資料 2「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化のポイント」を参照のこと。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo13/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/05/26/1371405_03_1.pdf（最終閲覧日、2017 年 3 月 4 日）。
- 15 2017 年 2 月 5 日付の朝日新聞によると、公立化された（あるいは予定または検討中等の）大学は次のとおり。高知工科大学（2009 年）、静岡文化芸術大学（2010 年）、名城大学（2010 年）、鳥取環境大学（2012 年）、長岡造形大学（2014 年）、山口東京理科大学（2016 年）、長野大学（2017 年）、その他、諏訪東京理科大学（2018 年）、公立小松大学（2018 年）、旭川大学（検討中）、新潟産業大学（検討中）、千歳科学技術大学（市に要望）。
- 16 朝日新聞、2017 年 2 月 5 日付。
- 17 例えば、「平成 28 年度私立大学等総合改革支援事業」である。
- 18 前掲、寺崎昌男、「教養教育における「建学の精神」の可能性－私学ならではの教育の実践－」。